

太宰府市俳句。ポスト第百十二回入選者

(令和三年八月十一日～令和三年十一月九日)

選者 阿比留 初見

入選句

弘法の池の木洩れ日水澄めり	(久留米市)	井上 千代子
水澄みて音澄む流れ堰広し	(太宰府市)	松尾 満子
鉦叩観世音寺の句碑ほとり	(久留米市)	平岡 清志
賑やかに杜の揺れをり小鳥来る	(大野城市)	北 嘉与子
うれしさを両の手で受け七五三	(筑紫野市)	村田 芳子
空を見て風を感じて秋を知る	(築上郡)	梅岡 由梨
少年のぼつたを放つ放生夜	(太宰府市)	久保 通
過ちをまた思ひ出す秋彼岸	(小郡市)	宮原 勝彦
幾鉢も準備急かるる菊まつり	(筑紫野市)	笹倉 裕子
障子はり明るい日ざしふりそそぐ	(筑紫野市)	今林 松代
神官のマスクの祝詞秋の宮	(太宰府市)	土師 累徳
太宰府の静かな日曜秋しぐれ	(福岡市)	田中 茂樹
単位賭け深々一礼秋の宮	(福岡市)	松坂 龍之介
飛梅に祝福捧ぐ秋の旅	(岐阜県)	永井 颯
水みくじ叶へてほしき秋の宮	(神奈川県)	永野 沙季
遊園地二人について来るとんぼ	(佐賀県)	永尾 萌音
四阿に語らふ仲間草の花	(太宰府市)	中島 祝乃
せみの声みんなみんなといい声だ	(大野城市)	毛利 ゆづ
だざいふのあきねんがんのうめがえもち	(福岡市)	前田 一朔
部活終へグラウンド染める秋夕焼	(太宰府市)	瀧田 智美

十四歳